

# 行政調査報告書

沼田市議会議長 様

平成30年 1月27日

会派名： 沼田同友会

代表者： 会長 大島 崇行

政務活動費を使用した行政調査について、下記のとおり実施しましたので報告いたします。

## 記

1	期 日	平成30年1月23日(火)～25日(木)
2	調 査 地	23日：福岡県大野城市 24日：福岡県北九州市皇后崎工場 25日：福岡県太宰府市及びとびうめアリーナ
3	調査事項	23日：行財政改革について 24日：ゴミ焼却工場での発電について 25日：公共施設等総合管理計画及び体育複合施設建設について
4	参加議員	会長 大島 崇行 幹事長 星野 佐善太 星野 稔、小野要二、久保健二、坂庭直治、野村洋一、高山敏也 中村浩二、茂木清七、桑原敏彦、永井敏博、林 清史
5	調査概要	①調査目的、②調査内容等を記入(別紙で調査資料及び写真等を添付)

調 査 日：平成30年1月23日(火)

場 所：大野城市

時 間：午後1時58分～3時30分

調査事項：行財政改革について

説明者等：開 会 主任主事 [REDACTED]  
 歓迎挨拶 議事課長 [REDACTED]  
 御礼挨拶 会 長 大島崇行、議 長 星野 稔  
 説 明 者 係 長 [REDACTED]

概 要：

① 調査目的

沼田市においても、急速に進む少子高齢化による人口減少は避けられない状況であり

ます。また、社会環境や経済情勢の著しい変化、非常に厳しい財政状況、多様化する市民ニーズに対応するため、更なる行財政改革が必要でありますので、行財政改革について先進的に取り組んでいる大野城市を視察し、その取組を参考に、沼田市における行財政改革への取組を推進するため調査するものであります。

## ② 調査内容

大野城市は人口約10万人の市で、平成29年度予算は351億円であり、自主財源が依存財源を上回り、財政力指数も0.79で、財調基金を含む積立金は157億8千万円と安定した市であります。今後の財政状況や地域経済の状況等を勘案し、簡素で効率的な行財政システムを構築し、自らの行財政運営について、透明性を高め公共サービスの質の向上に努めるため、積極的な行政改革に取り組んだものであります。

福岡市のベッドタウン的な市であり、2017年には住民の住みやすさランキング1位になるなど、人口も微増しておりますが、1年間の転出・転入が1万人前後で出入りも多い市であります。

大野城市が行政改革に取り組むために、まず職員の意識改革からはじめ、職員研修も雑学を含めユーモア的に行ったり、職員を地域行事に参加させてスキルを身に付けさせて地域との連携をつくりあげたり、地元の区長が公民館長に就任するなどして、行政と地域が一体となっている市であります。

大野城市の取組の特徴は大野城市公共サービスDOCK事業をコンサルタントへ委託し、大野城市独自の総合型行政評価システムを構築し、先進的な市であります。

また、第三者評価による診断体制として、公共サービス改革委員会を設置し、委員会構成員は職員以外の委員とし、外部からの第三者評価（チェック）機能を充実させたことが大きな特徴であります。

また、市長の市政方針が新旧住民の融合と民間委託（NPO）への推進を掲げ、行政改革の推進を図ったものであります。

## ③ 質 疑

以下項目について質疑しました。

- ・ 職員の意識改革について
- ・ 公共サービスDOCK事業のコンサルタントの委託について
- ・ 公共サービス改革委員会の第三者評価による診断体制について  
（職員以外の委員構成について）
- ・ フルコスト計算書ヒアリングへの議員の傍聴について

調 査 日：平成30年1月24日（水）

場 所：北九州市 皇后崎工場

時 間：午後1時45分～3時30分

調査事項：ゴミ焼却工場での発電について

説明者等：開 会 皇后崎工場長 [REDACTED] (歓迎挨拶を兼ねて)

御礼挨拶 会 長 大 島 崇 行

説 明 者 皇后崎工場長 [REDACTED] 外1名

概 要：

① 調査目的

沼田市では、資源ゴミの処理や危険物の埋め立て処分場も限界のため委託処理をしている状況であり、また、関係する市村の処理場も老朽化しており、新たな処理方法や処理場の建設などを模索しているところでもありますので、北九州市の皇后崎工場の処理状況を視察し、今後の沼田市や関係町村等のごみ処理場の建設を検討するため調査するものであります。

② 調査内容

北九州市には、新門司工場、日明工場、皇后崎工場の3ヶ所の工場でごみ処理を行っております。

この他に、日明粗大ゴミ資源化センター、北九州市プラスチック資源化センター、日明かんびん資源化センター、本城かんびん資源化センターなどがあり、北九州市のすべてのゴミ処理や資源化を行っております。

その内の皇后崎工場は北九州市の若松区、八幡東区、八幡西区の3地区が対象であり、北九州市の人口95万人のうち、3地区の40万人を対象とするゴミ処理工場であります。

皇后崎工場は、建設事業費345億円で、1日810トンのゴミ処理が可能で発電出力は17,200kWで、中央制御室で一元的にコントロールしており、作業の自動化・省力化を図っているのが大きな特徴であり、最先端のテクノロジーが活かされている施設であります。

また、半乾式有害ガス除去システムを採用して塩化水素や硫王酸化物、水銀、ばいじんなどを除去するとともに、ダイオキシン類の生成を抑制、排ガスを原因とする公害の発生を防ぐなど、環境保全の対策にも配慮した施設であります。

特に、ごみ焼却により、発生した熱をボイラーで無駄なく回収し蒸気タービン発電機で発電を行い、この電力で工場内の電力を消費するほか、皇后崎環境センターや西部浄化センターにも送り、余剰電力は電力会社へ売電しており、年間6億から7億円（一般家庭7万2千世帯分）の収入を得ており、ごみを利用して収入を得る施設であり、これからの施設の先進的な処理場であります。

その他にも、ごみの衛生化、無害化のために焼却し、余熱の有効利用をしておりますが、やはり、ごみは減らすこと、そしてリサイクルすることが必要であるとのことから

ごみを焼却し、土にして、埋め立てて、一部は三菱マテリアルにセメントの材料として売却もしており、リサイクルとしても有効活用している施設であります。

### ③ 質 疑

以下項目について質疑しました。

- ・ 工場の経常経費について
- ・ 新門司工場と皇后崎工場の処理能力と発電出力について
- ・ 運営していく上での課題等について
- ・ 余熱の利用方法等について（売電関係）
- ・ リサイクル関係について（セメント材料等）

調 査 日：平成30年1月25日（木）

場 所：太宰府市及びとびうめアリーナ（総合体育館）

時 間：午前10時12分～11時40分

調査事項：公共施設等総合管理計画及び体育複合施設建設について

説明者等：開 会 議事課長

歓迎挨拶 議会事務局長

挨 拶 会 長 大島 崇行（開会時）

幹 事 長 星野佐善太（閉会時）

説 明 者 総務部理事

教育部スポーツ課長

管財課長

同課主任主査

概 要：

#### ① 調査目的（太宰府市公共施設等総合管理計画）

沼田市の人口は少子高齢化により減少している状況下で、社会保障費は増加しておりますが、税収等の自主財源は減少傾向が予想され、このままでは現状どおりに公共施設等を維持・更新していくことが財政的に困難となる状況のため、市公共施設等総合管理計画を策定し、2056年度までの40年間で施設の総床面積の合計を40%削減する目標を掲げておりますので、公共施設等総合管理計画の先進的取組を行っている太宰府市を視察し、沼田市の掲げている目標値を達成すべく調査するものであります。

#### ② 調査内容（太宰府市公共施設等総合管理計画）

明治22年に3村が合併し太宰府村となり、明治25年に太宰府町に、そして、太宰府町と水城村が合併し新太宰府町に、人口急増期を迎え、昭和57年に太宰府市が誕生しました。

平成17年には九州国立博物館が開館し、太宰府天満宮と合わせ、国内外から年間約890万人もの観光客が訪れる観光市であります。

人口は平成29年3月末で71,274人、市の面積は29.60平方キロと狭く人口密度の高い市であります。

福岡空港にも近接しており、太宰府天満宮などの関係から、大学4校、短期大学3校、専修学校1校、高校4校なども設置されており、代表的な文教都市であります。

市の将来展望による人口の推移は、平成42年まで微増が続いて最大値74,266人となり、その後減少しながら平成57年には現在と概ね同水準の72,778人となることを見込まれています。

太宰府市においても、公共施設の老朽化に伴う維持管理に係る負担及び社会情勢の変化等の課題対応が迫られており、このようなことから、早急に公共施設等の需要の変化や管理状況を把握し、中長期的な視点から計画的に維持管理を行うため太宰府市公共施設等総合管理計画を策定したものであります。

### ③ 質 疑（太宰府市公共施設等総合管理計画）

以下項目について質疑しました。

- ・ 総合管理計画策定の経緯について
- ・ 施設削減による財政負担の軽減について
- ・ 人口はさほど減少していない状況での総合管理計画について

### ④ 調査目的（体育複合施設建設）

沼田市では、テラス沼田、(仮称)利南運動広場、市民体育館（改修）、給食センター、武道場など、合併特例債充当事業による箱物が建設または計画されておりますが、今後の沼田市公共施設等総合管理計画との整合性や施設の利用頻度、維持管理などの市民負担を含めて、先進的な太宰府市の体育複合施設を視察し、参考とするため調査するものであります。

### ⑤ 調査内容（体育複合施設建設）

体育複合施設は太宰府市のスポーツの振興、生涯健康づくりの推進、文化の振興および防災避難に資する拠点施設として、とびうめアリーナを建設したものであります。

この施設は、平成24年6月に「体育複合施設建設に関する基本的な考え方」を策定、平成25年9月「太宰府市体育複合施設建設基本計画」を策定、その後実施設計や建築工事の入札など行い、着手したものであります。

平成27年7月に市民説明会を行い、総建設費2,915,565千円にて、平成28年11月開館した施設であります。

市民説明会は建設中に平成27年7月18日と19日の2日間行われ計217人が参加されており、行政と市民との複合施設であります。

また、施設はアリーナ、柔道場、剣道場、多目的ラウンジ、軽運動トレーニング室、

研修室、会議室、シャワー室などが整備されており、快適な施設であります。

特に、災害など有事には避難施設となり、市民の安全確保にも利用される複合施設であります。

⑥ 質 疑（体育複合施設の建設について）

以下の項目について質疑しました。

- ・ 体育施設を複合施設とした経緯について（有事の避難施設）
- ・ 市民説明会やアンケートの集約内容等について
- ・ 維持管理等の問題点などについて（使用料等）

※ 日程表や名刺及びに視察写真等並びに資料については、別添のとおりです。

会 派 名		沼田同友会	議 員 名	大 島 崇 行
1	期 日	平成30年1月23日（火）～25日（木）		
2	調査事項	23日：行財政改革について 24日：ゴミ焼却工場での発電について 25日：公共施設等総合管理計画及び体育複合施設建設について		
3	所 感	調査後の考察（感想、政策提言、本市にどのように活かせるか など）を記入		
<p>調 査 日：平成30年1月23日（火）</p> <p>場 所：大野城市</p> <p>時 間：午後1時58分～3時30分</p> <p>項 目：行財政改革について</p> <p>所 感：</p> <p>今回の視察は、10月の予定でしたが国選等があり年明けになりました。ところが、首都圏が55年ぶりの大雪と寒波に襲われ急遽、新幹線で博多まで行くことに決定し、沼田から（上毛高原～博多）約6時間40分で着きました。意外に疲れもなく日本の交通網、特に新幹線の安全安心の強さを体験して感謝しています。</p> <p>最初の視察先である大野城市視察の内容は、公共サービス DOCK 事業による大野城市の行財政改革について、ここは星野議長が数年前に知人から「行革をするならば大野城市で視察に行くべき」との話があったとのことで申し込みした経過がありました。</p> <p>人口約10万人、職員数400人。本市が、人口約48,000人、職員数400人で大野城市は、嘱託員が約120人で本市と変わりがありません。特に、指定管理はできる限り推進したそうです。人口は、近年500人位毎年増えているそうです。高速のインターも近いし、企業も数社ありインフラ整備も進んでいます。まさに、住んでよかったとの市民の声がある、日経ブランド社に掲載全国一位の住みたい街です。</p> <p>全国の地方自治体の経営は非常に難しいです。特に、人件費の負担が大きいことが、どの自治体も一番の問題です。また、扶助費の右肩上がり、老朽化施設の問題、国・県の財源移譲の削減。大野城市は、職員数が人口より全国でも少ない、アウトソーシングを推進し、市長のインセンティブもしている。ここまで行革の基本構想は、やはりコンサルタントを委託して本日はあるそうです。</p> <p>さらに「活力ある市として」さらなる市民サービスの向上と業務効率化を実現するために独自の統合型行政評価システム公共サービスDOCK事業を構築し、これもコンサルタントに委託して作成（D誰でも、Oオープン、Cチェックできる、K環境づくり）。</p> <p>地域を4カ所に分けて、経営の最適化事業内容は、平成19年度より実施。市民満足度の高い行政サービスの提供及び効率的な行政運営を目指し、様々な視点から、多角的に評価・診断を行う大野城市独自の総合型行政システム。この内容は大変勉強になりました。</p> <p>本事業に対しては、公共サービス改革委員会を設置し年4回開催しています。また、目的</p>				

は、公共サービスの質の向上と行政経営の効率化を図るため、市民満足度、財務、業務プロセス、人財の育成と活用の面から市の業務を検証する公共サービスに対して経営の視点から専門性の高い評価を行うことです。詳細に事業について評価し、委員構成も大学教授から企業経営者、会計士、労務士、コンサルタント等8名で構成されているそうです。

まだまだ参考になる点があり、特に興味があったのは公民館を区長が運営しているとのことでした。また、総務課、人事課等診断して2億9千万を削減し、スクラップアンドビルドも取り入れています。

ここまでするのは、時間とコンサルタントの知恵と知識が必要です。本市も参考にして、今後、行財政の改革を少しずつ進めていくことが、市政一番の課題です。

必ず少子高齢化の時が来ます。大野城市の行財政改革の資料を参考にして（貴重な資料です）、本市も、一日も早く推進をしていく必要があります。首長も職員も市を思い市政に取り組んでいる市政が素晴らしいです。

調 査 日：平成30年1月24日（水）

場 所：北九州市 皇后崎工場

時 間：午後1時45分～3時30分

項 目：ゴミ焼却工場での発電について

所 感：

北九州市の1日のごみ処理能力は、皇后崎工場810トン、日明工場600トン、新門司工場720トン。3工場あわせて処理能力は、2,130トンで1日のゴミ処理能力は安定的に処理することができ、3高炉1処理施設が故障しても残りの2施設で市民に迷惑をかけないですみます。

皇后崎工場の概要としては、敷地面積が40,925㎡、焼却炉型式連続焼却式ストーカ炉、ゴミ処理能力810トン（270トン×3炉）、発電設備蒸気タービン発電設備17,200kW、総工費345億円、その他分別のセンター9カ所の施設があります。

北九州市のゴミ対策の考えは、いずれ市民にとって生活と環境面等大きな負担となり、遅かれ早かれその時代が来ると想定して施設を確保して、また、二十数年前に焼却熱処理を利用して発電施設も併用していると説明を受けてたまりました。

ゴミ処理は、本市も小規模ながらも同じだと思いますが、皇后崎工場は焼却設備、発電設備など運転管理を効率よく行うために、分散型デジタルコントロールシステムを採用、機械を中央制御で一元的にコントロールして作業の自動化、省力化を図っているのも大きな特徴だそうです。最先端の技術の活用でゴミ処理の効率化、円滑化を図っているそうです。

発電は、蒸気タービンにより発電をします。前は、都市ガスでも発電していたそうですが、経費が掛かりすぎるため現在はしてないそうです。電気の売電は、年間6億～7億位だそうです。発電は、最大17,200kW、半乾式有害ガス除去システムを採用、有害物質を除

去しダイオキシン類の生成を制御・除去し、排ガスの公害の発生を防いでいます。

灰も一日16立米埋め立て地も近隣にあります。また、隣接したコンクリート工場に灰の一部を売却、本施設は築約20年だそうです、あと20年したら、耐震改修で前の空き地に新たに建てるそうです。前施設の跡地で現在の施設の裏に当たり、迷惑施設と考える人もいることから、土地を確保しており、この辺もやはり先のことを見こしています。

今後群馬県の考えは県内を大きく分けて4カ所ぐらい焼却施設を考えているようです。そのときは是非皇后崎工場を参考にしてもらいたいです。

調査日：平成30年1月25日（木）

場所：太宰府市及びとびうめアリーナ（総合体育館）

時間：午前10:12～11:40

項目：公共施設等総合管理計画及び体育複合施設建設について

所 感：

#### 【公共施設等総合管理計画について】

太宰府の人口は71,871人。まだ少子化の影響はあまりありませんが、高齢化率27%とすでに進んでいます。町の全体の約16%が国の史跡指定されており、また、大学が4校、短大が2校、専門校が1校、高校5校、さすが学問の神様菅原道真公を祭っている神社の太宰府です。

公共施設等総合管理計画は、全国の行政が今後抱えていく大きな問題です。国も40年の内に公共施設を含めライフライン等40%まで削減しなさいと公表されています。

太宰府は、計画期間平成29年から平成57年までの29年であり、78の建物公共施設、道路、橋梁、上下水道等が該当します。それらの施設が更新時期を迎えてきているのは沼田市も同じです。財政負担の軽減、これから少子高齢化により施設整備が求められます。

太宰府は人口が、現在は微増しているようですが、将来は減少が見込まれ計画的に整備維持管理が必要です。そのために、人口の推移、公共施設の老朽化施設の状況、今後の公共施設の維持管理の費用等を考慮して、十分な計画を策定しています。

市民に説明すれば、おそらく総論賛成確論反対の声が施設によってはあると思いますが、太宰府は地域が狭いので施設が統合してもさほど反対の声は上がらないと思います。沼田市は地域が広いので特に公共施設の統合は難しいと思います。

#### 【体育複合施設建設について】

次の視察である総合体育館を案内されました。とびうめアリーナ、外見だけでもやはり約35億かけているすばらしい施設です。

平成24年度から平成29年度にかけて総合体育館と公共施設を整備しました。入りにも災害用の受け入れの仮設トイレ建設はベンチです。

中の施設は、アリーナ、柔剣道場、トレーニング室、多目的ラウンジ、会議室、災害備蓄品の部屋も併設しています。聞くところによれば、隣接地に市民プールがあり、特に夏はアリーナと重なると駐車場が少ないそうです。やはり、設備が充実している施設ですので、市民は満足していると思います。本市は特に施設の統廃合は場所によっては遠くなる地域もありますので、市民にとっては、遠くても充実した施設ができればご理解をいただけるものと思います。

会 派 名		沼田同友会	議 員 名	星 野 佐善太
1	期 日	平成30年1月23日（火）～25日（木）		
2	調査事項	23日：行財政改革について 24日：ゴミ焼却工場での発電について 25日：公共施設等総合管理計画及び体育複合施設建設について		
3	所 感	調査後の考察（感想、政策提言、本市にどのように活かせるか など）を記入		

調 査 日平成30年1月23日（火）

場 所：大野城市

時 間：午後1時58分～3時30分

項 目：行財政改革について

所 感：

既に沼田市では行財政改革を実施しているが、毎年、毎日、改革の目線で行き組み、市民サービスを怠ることなく、満足度を高めることが必要である。

今後の更なる沼田市行財政改革の推進において求められる取り組みは、

- 1 事業コストの削減
- 2 民間企業経営理念を採り入れた成果主義

の推進である。

また、本市における諸種の課題についても更なる検討・推進が必要である。

- ・ 市の健康対策については、健康人口増の施策を実行。
- ・ 若者が定住でき、また、他県他市から移住してみたいと思えるような、まちづくり対策、環境づくり。
- ・ 子育て環境支援施策の実行。
- ・ 若者雇用の場、企業誘致の促進。
- ・ 公共施設の統廃合と利活用についての調査・検討を早めに進めること。
- ・ インフラ整備の調査、改修箇所の調査を早めに進めること。
- ・ 今後、市の施策等は、これまで以上に慎重に検討し、特に、建物等の建設は、20年、30年先を見据えること。
- ・ 予算の編成で人件費、福祉施策が大きな歳出を占めるが、これらの対応策。
- ・ 高齢者を支える若者が減少している現状の打開。

全て人間社会が国を支え、福祉事業を守り、支えることが責務である。これからも市政発展のために議員と市長、職員が一丸となり、市民の皆様に満足していただけるよう議論を重ね、まちづくりに邁進してまいりたい。

調 査 日：平成30年1月24日（水）  
場 所：北九州市 皇后崎工場  
時 間：午後1時45分～3時30分  
項 目：ゴミ焼却工場での発電について

所 感：

今後、本市と広域圏内の町村、あるいは北毛地区、県全体で焼却施設が必要か、または既に稼働している企業にその処理を委託するのか、近い将来、検討・議論を深める必要があると考える。

今回の調査先は、北九州市の一大工業地帯であり、沼田市との比較は無理があるが、本市もごみの処理、分別、リサイクル等を実施しており、また、焼却施設においては、薄根白岩のふれあい福祉センターへ温水を供給している。これと同様に、電気の発電に取り組むことも考えられる。

今後の検討課題としてまいりたい。

調 査 日：平成30年1月25日（木）  
場 所：太宰府市及びとびうめアリーナ（総合体育館）  
時 間：午前10：12～11：40  
項 目：公共施設等総合管理計画及び体育複合施設建設について

所 感：

【公共施設等総合管理計画について】

沼田市においても今後、2056年度までの間に施設の40%を削減する方針を固めた。その施行はこれからであるが、先般の市民構想会議の中でも、その方向性については「良」と認められている。

それぞれの地域の考え方と利活用、地域性を活かすこと、さらには人口減少対策、住民の満足度についても勘案する必要がある。

今後、行政がどのような計画を示していくのか、早くに方針を示していただきたい。

【体育複合施設建設について】

沼田市においては、現在、ドイツフェンシングチームが2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けた事前合宿地として滞在することが決まり、これに向け、現在体育館の改修を行っているところである。

もう少し面積が広ければ更に使いやすいものとなると思うが、現状よりも更に利用しやすい施設となるよう、改修工事には期待を寄せているところである。

会 派 名		沼田同友会	議 員 名	小 野 要 二
1	期 日	平成30年1月23日（火）～25日（木）		
2	調査事項	23日：行財政改革について 24日：ゴミ焼却工場での発電について 25日：公共施設等総合管理計画及び体育複合施設建設について		
3	所 感	調査後の考察（感想、政策提言、本市にどのように活かせるか など）を記入		

調 査 日：平成30年1月23日（火）  
場 所：大野城市  
時 間：午後1時58分～3時30分  
項 目：行財政改革について

所 感：

大野城市は財政状況や地域経済の状況等を勘案し、簡素で効率的な行財政システムを構築し、自らの行財政運営について、透明性を高め公共サービスの質の向上に努めるため、積極的な行政改革に取り組んだものであります。

福岡市のベッドタウン的な市であり、2017年には住民の住みやすさランキング1位になるなど、人口も微増しておりますが、1年間の転出・転入が1万人前後で出入りも多いとのことであります。

このような市であります、市長の市政方針が新旧住民の融合と民間委託（NPO）への推進を掲げ、行政改革の推進を図ったものであります。

大野城市の取組の特徴は大野城市公共サービスDOCK事業をコンサルタントへ委託し、市独自の総合型行政評価システムを構築したところが特徴であると感じました。

第三者評価による診断体制は、公共サービス改革委員会を設置し、委員会構成員は職員以外の者が就任しており、外部からの第三者評価としての機能を充実させたことが行政改革の成功のもとであると感じた次第です。

政策提言：

沼田市は少子高齢化により人口減少をしており、沼田市においても行財政改革は喫緊の課題でありますので、この大野城市の行政改革の取組を参考に、沼田市における更なる行財政改革の取組を提案していく所存であります。

調 査 日：平成30年1月24日（水）  
場 所：北九州市 皇后崎工場  
時 間：午後1時45分～3時30分  
項 目：ゴミ焼却工場での発電について

所 感：

北九州市には、新門司工場、日明工場、皇后崎工場の3ヶ所の工場でゴミ処理を行っております。

この他に、日明粗大ゴミ資源化センター、北九州市プラスチック資源化センター、日明かんびん資源化センター、本城かんびん資源化センターなどがあり、北九州市のすべてのゴミ処理や資源化を行っております。

その内の皇后崎工場は北九州市の若松区、八幡東区、八幡西区の3地区が対象であり、北九州市の人口95万人のうち、3地区の40万人を対象とするゴミ処理工場であり、規模が大きい工場であると感じました。

皇后崎工場は、1日810tのゴミ処理が可能で発電出力は17,200kWであります。

皇后崎工場は中央制御室で一元的に管理されており、作業の自動化・省力化が大きな特徴であり、最先端のテクノロジーが活かされている施設であると感じました。

特に、ごみ焼却により、発生した熱を蒸気タービン発電機で発電し、この電力で工場内の電力を消費するほか、皇后崎環境センターや西部浄化センターにも送電し、余剰電力は電力会社へ売電しており、年間6億から7億円の収入を得ていて、ごみを利用して収入を得る施設であり、先進的な処理場であると感じました。

政策提言：

沼田市では、関係するごみ処理場は老朽化しており、ごみ処理に苦慮している状況であり、また、これからの処理場は建設経費が高額なため、利根沼田広域圏等広範囲で検討し、設置していくことが求められると思いますので、ゴミ処理場についてに研究し提案していく所存であります。

調 査 日：平成30年1月25日（木）

場 所：太宰府市及びとびうめアリーナ（総合体育館）

時 間：午前10時12分～11時40分

項 目：公共施設等総合管理計画及び体育複合施設建設について

所 感：

公共施設等総合管理計画について

明治22年に3村が合併し太宰府村となり、明治25年に太宰府町に、そして、太宰府町と水城村が合併し新太宰府町に、人口急増期を迎え、昭和57年に太宰府市が誕生しました。

福岡空港にも近接しており、太宰府天満宮などの関係から、大学4校、短期大学3校、専修学校1校、高校4校なども設置されており、代表的な文教都市と感じました。

市の将来展望による人口の推移は、平成42年まで微増が続いて最大値74,266人となり、その後減少しながら平成57年には現在と概ね同水準の72,778人となること

見込まれています。

このようなことから、早急に公共施設等の需要の変化や管理状況を把握し、中長期的な視点から計画的に維持管理を行うため太宰府市公共施設等総合管理計画を策定したものであります。

#### 体育複合施設建設について

この施設はアリーナ、柔道場、剣道場、多目的ラウンジ、軽運動トレーニング室、研修室、会議室、シャワー室などが整備されており、快適な施設であると思います。この施設の特徴は、体育施設ではありますが、災害など有事には避難施設となり、市民の安全を確保するための施設であり、太宰府市の中心的複合施設と感じました。

#### 政策提言：

##### 公共施設等総合管理計画について

沼田市の公共施設等総合管理計画を考えますと、沼田市は少子高齢化による人口は減少するのみで、増加することはないと考えます、また、財政的にも厳しい状況であるので更なる総合計画に沿った取組を行い維持管理に負担が増加しないよう提案していく所存であります。

#### 体育複合施設建設について

沼田市においても、(仮称) 利南運動広場、市民体育館改修工事、武道場の建設等をはじめ、箱物施設が建設されておりますが、維持管理費などの負担があまりかからないように、また総合的に利用しやすい施設となるよう、研究し、提案していきたいと思います。

会 派 名		沼田同友会	議 員 名	星 野 稔
1	期 日	平成30年1月23日（火）～25日（木）		
2	調査事項	23日：行財政改革について 24日：ゴミ焼却工場での発電について 25日：公共施設等総合管理計画及び体育複合施設建設について		
3	所 感	調査後の考察（感想、政策提言、本市にどのように活かせるか など）を記入		
<p>【調査の目的】</p> <p>平成29年5月に保守系2会派の合流により誕生した、沼田同友会（14名・今回参加者13名）では、沼田市が直面する課題と今後取り組むべき政策課題を精査し、行政調査の実施に向けた検討を重ねてきました。</p> <p>大野城市の行革への取り組みは全国自治体の中でも、最も評価の高いものであり、沼田市でも合併特例債を有効活用した施設整備が推進されていますが、平行して行革に取り組むべきであると考えられます。</p> <p>北九州市は高度経済成長期に環境汚染に悩まされ、それを克服してきた経験と実績があり、全国有数の環境都市の名を不動のものとしております。特に今回は近い将来、利根沼田地域のゴミ焼却施設を3カ所から1カ所に集約する時代の要請に応えていくために、最先端のゴミ焼却施設を運営する北九州市皇后崎工場を調査する事になりました。</p> <p>太宰府市は沼田市と単純な比較はできませんが、公共施設等総合管理計画が着実に推進され、体育複合施設「とびうめアリーナ」が竣工し、沼田市民体育館改修と公共施設等総合管理計画の推進の参考にするため調査の実施となりました。</p> <p>【福岡県大野城市：公共サービスDOCK事業による行財政改革について】</p> <p>5年前前、富士通群馬支店長の紹介で、富士通総研の自治体行革アドバイザーの佐々木央氏と懇談の機会を頂いた。全国230自治体とアドバイザー契約を結ぶ佐々木さんから、全国で一番行革が進んでいるのは福岡県大野城市である事を聞かされていたので、訪問し調査ができることに感謝を申し上げたい。</p> <p>大野城市では平成12年の地方分権一括法施行を受けて、「民にできる事は民に」「公でやるべき事は公で」を進めてきた。市役所業務のフロントオフィス（受付・窓口業務）は民間委託され、公で対応すべきバックオフィスに区分けされている。また市有施設のほとんどが指定管理となっている。</p> <p>また特筆すべきは、人口10万人の自治体でありながら、普通会計職員平成29年12月末現在410人（企業職をふくめると435人）と少なく、臨時・嘱託職員も正職員の3割程度と低い数値にあります。市の面積も26.89km<sup>2</sup>で半分が山林であり、管理がしやすいという利点もあるが、行政組織の合理化が進んでいることを強く感じます。</p> <p>では、どのように行財政改革を進めてきたのか。注目を集めているのが「公共サービスDOCK事業」による推進である。平成19年より市民満足度の高い行政サービスの提供及び</p>				

効率的な行政運営を目指し、様々な視点から、多角的に評価・診断を行う大野城市独自の統合型行政評価システムを実施してきた。

DOCK事業は、①市役所の仕事が見える化する、②職員、市民、専門家など多様な人たちがチェック（診断）する、③様々な視点から診断し、改善改革に取り組む。市民満足度の高い行政サービスの提供及び効率的な行政経営を目指すものです。

市役所の仕事が見える化するには、事務事業（小事業）を共通化することで、総合計画、予算決算、事務分掌を連携し、計画・経営資源・職場での実務を一本化することにより、事務事業の位置付けが明確になることで、事業の目的（総合計画）、コスト（予算決算）、所管（事務分掌）が一目瞭然になる。

チェック（診断）するには、公共サービス改革委員会（8名）が設置され、大学教授1名、公認会計士1名、社会保険労務士1名、接遇インストラクター1名、公募市民2名、コンサルタント1名が診断を行っています。沼田市では職員で組織されているため踏み込んだ診断や提言は出てこないのではないかと思います。大野城市のような第三者評価による診断体制が必要であると感じています。

DOCK事業により大野城市では2億5,000万円を削減してきたとのことだが、現在はこれ以上の削減が難しくなっているとの説明でした。

最後に大野城市の課題として説明を受けた、職員数の削減も限界にきており職員のモチベーションの維持が課題であり、年々仕事量が増えていくなかで、部局を超えた職員との情報共有と理解がなければ行財政改革の推進は不可能とのことであった。沼田市も当局と議会が一丸となって一步を踏み出す時に来ていると思います。

#### 【福岡県北九州市：ゴミ焼却工場での発電について】

冒頭の調査の目的でも述べた通り、利根沼田地域のゴミ焼却施設の統合は大きな政策課題であります。北九州市では皇后崎工場の一日のゴミ処理能力は810トン、日明工場600トン、新門司工場720トンで3工場合わせた処理能力は日量2,130トンになり、市内で発生する一日のゴミを確実かつ安定的に処理しています。

また、3工場とも発電機能を有しており、皇后崎工場1万7,200kW、日明工場6,000kW、新門司工場2万3,500kWの発電能力があります。調査に伺った皇后崎工場の対象地区人口は40万人で、日量500トンのゴミを焼却処分しています。焼却量の2割（日量100トン）が焼却灰として残るため埋め立て処分場に搬送しています。隣接地にある三菱マテリアルがセメントに再利用をしているが年間300トン程度となっている。

北九州市の平成27年度のゴミ処理経費は約132億円で、ゴミ焼却工場発電収入は約19億円となっています。利根沼田地域のゴミ焼却施設が統合され、新設される際には発電機能の導入を視野に入れるべきと強く感じています。

#### 【福岡県太宰府市：公共施設等総合管理計画及び体育複合施設について】

福岡県太宰府市は、福岡市に隣接し面積29.60km<sup>2</sup>、人口7万1,800人の名所、旧跡に恵まれた地方都市であります。学問の神様 菅原道真を祀った太宰府天満宮は余りにも有名で年間960万人の観光客が太宰府市を訪れています。また大学も4校開校しており街に活力が感じられます。

太宰府市の公共施設等総合管理計画は平成29年から平成57年までの29年間となっています。建物系公共施設78棟、道路総延長310km、上水道管延長330km、下水道管延長278kmで沼田市の公共施設と比較するとコンパクトな行政であることが分かります。その太宰府市でも危機感を持って計画の推進に当たっていることを考えると、沼田市の公共施設管理は定期的にチェックをし、見直しを行っていかないと次世代に大きなツケを残すことになると思われます。

次に、平成28年11月に開館した総合体育館「とびうめアリーナ」を視察・調査を行った。本施設はスポーツの振興、生涯健康づくりの推進、文化の振興及び防災避難に資する拠点施設として整備されました。総事業費34億7,357万円で財源の内訳は、国庫補助金2億8,942万円、県支出金2,528万3,000円、地方債23億870万円、基金繰入金6億1,476万5,000円、一般財源2億3,540万2,000円となっている。また、年間の維持管理費は6,900万円とのことであった。

施設の特徴として、屋外の屋根下に5基の一人掛けの椅子があり、災害時には仮設トイレの機能を有しています。1階には事務室、会議室、研修室、柔道場2面、剣道場2面、多目的ラウンジ（卓球室）、軽運動トレーニング室、男女更衣室、トイレが配置され、2階にはアリーナ、控え室2部屋、トイレが、3階は固定観覧席600席、1周180メートルのランニングコースが配置されており実に機能的であると感じました。また2階アリーナの両サイドには最大720席の移動観覧席が収納されていること、3階固定観覧席の下には冷暖房の吹き出し口が整備されているため、寒さを全く感じませんでした。

沼田市の市民体育館改修工事については、身の丈に合った予算で、効果的な改修工事になるように参考にしたいと思います。

会 派 名		沼田同友会	議 員 名	久保健二
1	期 日	平成 30 年 1 月 23 日(火)～1 月 25 日(木)		
2	調査事項	1 月 23 日(火)：行政改革について（福岡県大野城市） 1 月 24 日(水)：ゴミ焼却工場での発電について（福岡県北九州市） 1 月 25 日(木)：公共施設等総合管理計画について（福岡県太宰府市） 体育複合施設建設について（福岡県太宰府市）		
3	所 感			

1 月 23 日(火) 「行政改革について」 福岡県大野城市

**【行政改革と DOCK 事業】**

公共サービス DOCK 事業による大野城市の行財政改革  
平成 28 年に人口が 10 万人を超え、平成 37 年まで増加の推測。  
職員数は 410 人で、類似団体に比べて少ない。  
日経 BP の住みよいまちランキングで 1 位になった。  
地方自治体の経営環境が厳しさを増す中で、業務の切り分けをおこない、アウトソーシングを推進している。

活力ある市として、成果主義を推進し、市民満足度の向上を図る行政経営や、スクラップ & ビルド方式による行政経営をおこない、真に必要とされる事業に集中している。

フルコスト計算自体は平成 15 年度からおこなっているが、平成 19 年度から独自の「公共サービス DOCK 事業」を構築した。

**【公共サービス DOCK 事業】**

市民満足度の視点、財務の視点、業務プロセスの視点、人材の育成と活用の視点の多角的に評価・診断をおこなう統合型行政評価システム。

「市役所の仕事に見える化する」、「職員、市民、専門家など多様な人たちがチェック(診断)する」、「様々な視点から診断し、改善・改革に取り組む」ことによって「市民満足度の高い行政サービスの提供及び効率的な行政経営」を目指す。平成 29 年度・30 年度は第 4 期で、今後は新たな事務事業評価方法を検討する予定。

**【公共サービス改革委員会】**

第三者診断体制として「公共サービス改革委員会」を設置し、年に 4 回開催している。

財務の視点、市民満足度の視点、業務プロセスの 3 つの部会を設置し、評価結果を市長に報告する。

・財務の視点：フルコスト計算書診断

収支のバランスを考慮しながら、フルコストの適正さを診断し、診断書には診断結果及び改善提案と改善時期を明示する。診断体制は市民委員 13 名、コンサルタント、市役所関係

課でフルコスト計算書は市民に分かりやすく作成し、ヒヤリングの結果はコンサルタントが集約する。平成26年度からは従来の方法での課題としてあった部分最適化から全体最適化に向けて、目的別診断と性質別診断のグループ診断を試行実施している。

・市民満足度の視点：初期診断

実施計画事業を対象に、「市関与の妥当性」、「手段等の適切さ」、「事業の有効性」などの検証をおこなう。診断体制は有識者・コンサルタント、市民委員2名、市役所関係課。

・業務プロセスの視点：民間活用のあり方診断、業務・システム最適化診断

民間活用のあり方診断の指定管理者サービスチェックでは、最適な担い手であるか、実施効果が施設利用者に還元されているかを、補助金・負担金サービスチェックでは、市民に相応のサービスが還元されているかを診断している。診断体制は有識者・コンサルタント、市民委員2名、市役所関係課。

業務・システム最適化診断では、各システムの構築に対する自己診断シートを作成し、システムの最適化と導入効果を検証している。

・人材の育成と活用の視点：大野城市働き方改革委員会

管理職、職員組合、職員で構成される委員会で、ワークライフバランスを実践できる組織の構築を目指している。協議事項は、時間外勤務の現状及び問題点の把握、適正な年齢構成及び業務量に対応した配置の検証、職員ニーズに合致した休暇制度のあり方の検討。

【所感】

大野城市は平成15年という早い時期からフルコスト計算をおこなっている。その始まりは職員が主導してプランを作成したという。要因としては予算編成時に時間と手間がかかることをスムーズに行いたいということだった。はじめは熱意のある革新的な職員がプランを作成し、他の職員はそれに対して好意的な者が多かったという。通常、事務事業の評価等を公表することに抵抗を持つことが多いが、大野城市の風土なのか大きな違いを感じた。評価は職員だけでなく、市民や専門家などが加わる第三者評価もあるが、これに関しては今でも抵抗感が持たれるところもあるという。しかし、これを実施することによって目的の再確認や共有、新たな気づきにつながっているという。抵抗感があってもメリットの大きさを受け入れている感じがした。メリットは議会側にもあるのは当然で、質問等に活用しているという。また当委員会の傍聴に来ることもあるという。基本的に市民への公表が大前提なので、市全体のメリットにつながっていることも想像できる。この診断を通して事業の取捨選択や改善が行われているが、それに加えて研修によって人材育成も同時進行している。研修は座学が主体だったものが、公共マネジメントをゲーム形式にしてコスト意識の醸成を育むことに取り組んでおり、本評価システムとも連動することになる。これが事務事業の改善等につながるのには容易に想像できる。

自身の担当している事務事業が診断の対象になることは職員にとってつらいことになるが、そのこと自体が研修でもあるという考え方を持っている。とても前向きにとらえている

ことが感じとれた。

沼田市でも事務事業評価をおこなって公表もしているが、その作業は庁内のみである。コスト診断も見えてこない。予算編成時には各事業にシートがあるはずなので、それをもとにコスト診断もできるはずだと思う。また目的や性質を踏まえて事業執行すれば効率の改善につながると思う。大野城市の取り組みは先進であるが、これが将来的には標準になっていくのかもしれない。こういった事務作業自体の改革が行政・議会はもとより市民全体の福祉向上につながっていることを痛感したとともに大変参考になった。また、市民満足度と言う絶対値の重要性を再認識できる視察であった。

以上

---

1月24日(水) 「ゴミ焼却場での発電について 北九州市皇后崎工場」 福岡県北九州市

**【皇后崎工場の概要】**

建設年月：平成10年6月

ごみ処理能力：810t/日 (270t×3炉)

処理エリア：若松区・八幡東区・八幡西区、約40万人

事業費：345億円

発電設備：蒸気タービン発電 17200kw

年間発電量(平成28年度)：92,900MWh

年間売電量(平成28年度)：58,400MWh

**【スーパーごみ発電システム】**

平成10年度資源エネルギー庁長官賞受賞。

平成10年度から平成19年度まで稼働。

当初は焼却炉から出る蒸気でタービンを回し、それにガスタービン発電機の排熱で温度を上げて発電効率を上げていた。しかし天然ガス高騰によって平成17年から赤字が続き、平成20年度に休止。

**【現在の発電システム(余熱の有効利用)】**

既存のシステムでは黒字収支が見込めないうえ、休止継続でも年間1500万円の保守費用が必要であり、再稼働には1.9億円程度が必要でもある。初期投資は回収し、耐用年数も満了、公債償還も終了していることも加えて、平成28年にガスタービン発電機を廃止し、蒸気タービンだけとなった。蒸気発電は焼却炉が1炉稼働でも発電可能なものした。最も効率が良いのは2炉稼働時だが、焼却炉のメンテナンス時でも買電しなくても済むようになった。

電力は工場内で消費するほか、皇后崎環境センター、西部浄化センターにも送られている。

余剰電力は売電される。

### 【所感】

北九州市は環境とエネルギーに関しては先進地であり、人口規模の大きな違いがあっても参考にすることは多いと思う。皇后崎工場はゴミ焼却時の排熱利用の電力を工場内利用をはじめ売電につなげている。当初はガスタービン発電もあったが天然ガスの高騰によって採算が合わなくなり廃止した。耐用年数が満了し、公債の償還も終えたというタイミングもあるが、あるだけでマイナスになるものを廃止する判断も評価できる。さらに、高効率の蒸気タービンに絞り込み、焼却炉の稼働状況の影響を最小限に抑えて発電し続ける方式をとった。1炉でも稼働していれば買電しなくても済むようになっている。

皇后崎工場の規模は約 40 万人分のゴミ処理をおこなえる大規模なもので排熱量も大きい。小規模施設では発電量と売電収入はどうなるのか疑問が湧く。しかし、まず工場での活用量を賄えられれば良いと考えれば導入も視野に入ると思う。ただし設置費用やタイミングに寄るのは言うまでもないが、これからの売電価格や電気料金への影響を考えると、自給自足も考えに入れておく必要がある。今回視察した皇后崎工場は排熱利用による売電収入が先進事例でもあるが、小規模施設での電力利活用についても参考になった。

以上

1月25日(木) ①「公共施設等総合管理計画について」 福岡県太宰府市

### 【太宰府市公共施設等総合管理計画】

計画期間：平成 29 年～平成 57 年の 29 年間

建物系公共施設：78 (延床面積約 13,6 万㎡)

道路：実延長 310,961m、道路部面積 1,719,472 ㎡

橋梁：161 か所、橋梁面積 13,222.51 ㎡

上水道施設：管延長約 330 km

下水道施設：管延長約 278 km

老朽化建築物：建築後 30 年以上経過のものが約 80%

主要 39 施設が面積の 97%を占めている。

全体目標：普通建設事業費を 4%以上圧縮、29 年間の普通建設事業費を年平均 22 億円以内に設定。

人口一人あたりの施設量：1.9 ㎡と類似団体と比べて少ない

計画の推進体制：(仮称)公共施設等マネジメント検討委員会

課題と今後の展望：扶助費等増加する民生費の推移を見ながら進めたい。福岡市に近い所では学校(教室)が足りなくなることが予測される。反面、児童生徒が減少している地域では

学校の統廃合を考えなければならない。

### 【所感】

太宰府市の公共施設等総合管理計画については、人口一人当たりの施設量の少なさを考えると、沼田市と大きな違いを感じる。また人口推計も減少を続ける本市と比べてまだ増加が見込まれているのも大きな違いである。しかし、公共施設等の総量管理は必須なことであり、将来を見込んだ計画を立てている。計画における中心となるものは主要 39 施設で、小さなものは載せていない。毎年度の管理の中で検討していくとのことである。計画の公表は広報やホームページ等で公表されているが、新しい施設に関しては利用状況を知らせるとともに利用を促している。さらに多く問合せがあるものに対しては市の見解を知らせている。そのなかには後述の「とびうめアリーナ」も含まれている。施設総量や人口の推移は大きく違うが、人口の偏在化による学校の施設量などの同じような課題に向き合っていることも感じられた。公共施設等の管理に関しては自治体によって取り組みや課題が異なるのは当然だが、維持管理方針のわかりやすさや、施設によっては複数課の連携も明記されているなど市民に対する周知の仕方も参考になった。

以上

### 1 月 25 日(木) ②「体育複合施設建設について」 福岡県太宰府市

x

#### 【太宰府市総合体育館（愛称：とびうめアリーナ）】

開館：平成 28 年 11 月

事業費：84 億 7357 万円

施設概要：アリーナ、柔道場、剣道場、多目的ラウンジ、軽運動トレーニング室、研修室、会議室、屋外に健康遊具等の広場

駐車場：一般 276 台、大型 9 台、障害者用 10 台

利用実績（平成 28 年 11 月～平成 29 年 7 月）：84,663 人

固定席数：620（床下に空調吹き出しあり）

移動観覧席：720（このため床を補強している）

管理：指定管理（シンコースポーツ九州株式会社、西鉄ビルマネジメント、アシックス）

維持管理経費：6900 万円（平成 29 年度）

### 【所感】

太宰府市総合体育館（愛称：とびうめアリーナ）は市内に 4 つある体育館のひとつである。開館は平成 28 年 11 月で、指定管理によって運営されている。利用者数も充実した施設によって開館一年足らずで 8 万人を超えている。但し課題としてほかの 3 つの体育館を含めた効

率的な運営と、広域的な利活用がある。

施設運営にあたっては指定管理者の中にスポーツメーカーのアシックスが加わっていることから専門的なアドバイスを受けた教室開催も期待される。これは利用者増や市民の健康維持・促進につながると考えられる。

施設に関しては充実しているのはもちろんだが、移動観覧席による座席数の確保、指パーソナルデザインの導入、キッズスペース、会議室・研修室も備えていることに加え多言語表示もされている。また明るさと解放感も優れている。これらを実際に見ると新しい施設だと体感する。

この施設の大きな特徴は、災害時の避難施設になっている。室内に避難できるのはもちろんだが、屋外にあるベンチは簡易トイレになる仕組みになっている。これからの施設はこういった複合的な者であることが必要だが、特に災害時の使い方は重要である。それは体育館や学校、庁舎など大きな建物に限った話ではなく、公共施設全体で考えるものである。沼田市では市民体育館の改修、武道場の建設、給食センターの建設、テラス沼田の改修等に加え、公共施設等の管理の中で更新等をするものが多々ある。そういった時期には多機能性を考慮する必要がある。「とびうめアリーナ」は体育館の機能と公共施設等総合管理計画での位置づけを主眼に視察したが、この多機能性についても参考になった。

以上

会 派 名		沼田同友会	議 員 名	坂 庭 直 治
1	期 日	平成30年1月23日（火）～25日（木）		
2	調査事項	23日：行財政改革について 24日：ゴミ焼却工場での発電について 25日：公共施設等総合管理計画及び体育複合施設建設について		
3	所 感	調査後の考察（感想、政策提言、本市にどのように活かせるか など）を記入		

1月23日（福岡県大野城市）

大野城市を視察させて頂きました。公共サービス DOCK 事業による大野城市の行財政改革についてです。「企画政策部自治戦略課」を設けて取り組んでいました。人口10万人都市で職員数410人と少なく、それでいて2017年住みよい街全国1位との説明を聞いて驚きました。地方自治体の環境は、人口減少時代、特に生産年齢人口の減、高齢者人口は増で扶助費の増加、老朽化施設の更新、地方分権改革で増える仕事と責任、しかし財源移譲は限定的と厳しいものがあります。

大野城市はもとより財政は強く、人口当たりの職員数が少ない街でしたが、さらに活力ある市を目指し、民間経営理念を取り入れた成果主義の推進、集中と選択で徹底的に公共サービスの費用対効果を向上させる目的で「公共サービス DOCK 事業」、大野城市独自の総合型評価システムを構築、民間委員は専門職、各種団体の人、公募市民など約18名の組織で、年に4回開催して行っています。ここまでこられたことは、市の面積が26.89平方メートルと少ない、企業職の人25人ほど、公民館長は区長さん、またパートを30%くらいうまく配置されています。今でも人口増であり、若い人が多いこともありますが、説明された職員によると、そろそろ限界に近いと言われていました。沼田市に取り入れることがたくさんあります。しっかりと伝えたいです。

1月24日（福岡県北九州市）

北九州市にあるごみ処理施設の皇后崎工場を視察、約40万人分、1日810トンのごみを処理する際の熱利用で、17,200kwの発電をしています。施設は安全に管理運営を行うために、コンピュータ制御で自動化しています。環境保全対策は、ろ過式集塵機を使い、ダイオキシンの発生は抑えられています。蒸気タービンは3台ありますが、現在は効率的な運転をするために2台で稼働しているとのことでした。

ほかにも、排水は中和ろ過し再利用、灰にも飛散ないように安定剤使用、今の新技術を取り入れた工夫を多く見る事ができました。

沼田市には、人口規模からみて発電までは無理でも、新技術を取り入れた、公害の出ない、ごみ処理施設建設は喫緊の課題であり、参考にします。

1月25日（福岡県太宰府市）

太宰府市の公共施設等総合管理計画（持続可能な行政サービスを実現するために）を視察、

太宰府市にあっても公共施設の８０％が築３０年と更新期を迎えています。一方、少子高齢化で民生費が増加傾向にあり、改修・更新の予算は限定される。今、人口は微増ですが、将来は減少が見えているため、施設整備は慎重になる。公共施設再編計画では、改修・新築においても、一部用途変更しても複合化された施設とする。

「とびうめアリーナ」は、２８年１１月完成。アリーナ・柔剣道場・多目的ラウンジ・軽運動トレーニング室・研修室・会議室とさまざまな機能を持っています。さらに、災害時には避難場所の予測もされた大変立派なものですが、サブアリーナがないことで大きな大会は開催できないのが残念です。

沼田市には無理ですが、参考にできる部分もありますので取り入れたいです。

会 派 名		沼田同好会	議 員 名	野村洋一
1	期 日	平成30年1月23日(火)～1月25日(木)		
2	調 査 事 項	・ 行財政改革 ・ 最先端のごみ処理施設 ・ 公共施設総合管理計画		
3	所 感	調査後の考察(感想、政策提言、本市にどのように活かせるか など)を記入		

大野城市の行財政改革への取り組みについては誰でもオープンにチェックできる環境づくりを合言葉に、市役所の仕事の問題点や改善点を分かりやすくする努力を積み重ねて、事務事業の成果目標を明確にしたことについて職員の皆さんの努力に敬意を表したい。

大野城市は人口10万人、市職員は410人であり、本市と比べると少数精鋭であります。政策提言をあげるとすれば、本市職員が奮闘努力をしていただき公共サービスの改革、改善に務めていただくことを願うところであります。

大野城市は成果に対し、職員にインセンティブを与えている。職員の意欲を高め本市も見習うべきことと思う。

北九州市小倉北区内の皇后崎工場については、規模の大きさに圧倒されました。

ごみ発電の高温蒸気を発生させるため、一般家庭ごみよりも事業用廃材等の処理量を多く受け入れているところが、本市と二ヶ村のごみ焼却施設との違いで参考になりました。

太宰府市の公共施設総合管理計画及び体育複合施設については、次世代に負担を残さないための公共施設マネジメントについて「概要版」が配布され特別な説明はなかったが、概要版の内容については本市の計画と方向性においてはほぼ同じと推察した。

体育複合施設「とびうめアリーナ」の視察を行ったが、37億円の巨額な建設費を投入した施設なので建物の外観・内部等については大変立派な施設で羨ましい限りでありました。

しかしながら、観客席数の問題でプロバスケット大会の誘致が不可なこと、サブコートの不備によるバレーボールリーグ戦の誘致が不可と説明を受け、費用対効果を考えるともったいない感はありません。

会 派 名		沼田同友会	議 員 名	高 山 敏 也
1	期 日	平成30年1月23日（火）～25日（木）		
2	調査事項	23日：行財政改革について 24日：ゴミ焼却工場での発電について 25日：公共施設等総合管理計画及び体育複合施設建設について		
3	所 感	調査後の考察（感想、政策提言、本市にどのように活かせるか など）を記入		

福岡県大野城市（平成30年1月23日）  
大野城市行政改革調査

【調査目的】  
大野城市は人口約10万人、沼田市のほぼ倍の人口を有するが、当市を始めほとんどの地方都市で人口減少に悩む中、毎年500名程の人口増加を達成している。またある調査では、「住みたいまち」のランキング1位とのこと。一方、現職員数が435名と類似都市と比して極めて少なく（沼田市平成24年職員数475人）、行政改革が進んでいる都市としても有名である。それら同市の行政改革を行政調査の対象とした。

【行政改革の概要】  
平成15年度より「フルコスト計算診断書」制度を実施。これは、毎年行う経常的事業の収支・コストのバランスなどを見える化するため「フルコスト計算書」を作成し、コンサルタントや市民・専門家などの第三者の評価を受け、その診断にもとづき事業の効率性や必要性を判断できるようにしたものである。また平成19年度からは、更に「民間活用のあり方診断」（公共サービスの担い手検証）「業務・システム最適化診断」（システムを利用した業務最適化、ICT化による業務改善効果の検証）、「初期診断」（実施事業の事業中評価、市民の満足度調査）を導入、平成23年度からは、「人材の育成と活用診断」（人事評価制度の導入、職員の育成・向上）を加えた。そしてこれらを、多角的に行政評価（診断）を行うシステム「公共事業DOCK（ドック）事業」（D＝誰でも、O＝オープン、C＝チェック出来る、K＝環境づくり）として構築した。  
このDOCK事業の特徴は、公認会計士、企業経営者、社会保険労務士、コンサルタント、公募市民など第三者により公共サービス改革委員会を設置し、委員会は、ヒアリング等を行うため3つの部会（フルコスト計算診断、初期診断、民間活用のあり方診断）を設置、それらに基づき事業の評価を行い市長へ報告する。これら診断の過程における公共サービスの検証・評価では、市民満足度調査、まちの姿アンケートによるチェック（インターネットのウェブコメのみに依らず、市民へ郵送によるアンケートの実施）なども行い市民参加も促している。

【所 感】

大野城市の行政改革は、以上のような「フルコスト計算診断書」制度を基本として行政・事業・施策、それらのコストの見える化及び第三者による評価に基づき、民間経営理念を取り入れた成果主義の推進により、「民で出来るものは民へ」の徹底したアウトソーシング・民間活用などを実施した結果、行政改革・スリム化はなされたものと思われる。一方で「住みたいまちランキング一位」の市民評価を受けている点などをみると、市民サービスを低下させる単なるスリム化ではなかったことが分かる。行政改革は、誤った視点・方法からなされると市民サービスと反比例の結果を招く難しい課題であるが、その点をクリアーされた大野城市の行政改革は大いに学ぶべきものと思う。その柱は、行政の各事業のコストや効率、必要性などをみえる化し、市民や第三者により客観的に評価、また評価の過程では市民の声・意見に充分耳を傾け、「正しい集中と選択」(スクラップ&ビルド)がなされたからと思われる。行政改革の課題を考えるに当たり、最も重要な点は、その目的が「市民のため」であり、方法が「市民を巻き込んで」かつ「専門家など利用して客観的」になされることとの所感を得た。

福岡県北九州市 平成30年1月24日

皇后崎工場(ゴミ処理工場)調査

#### 【北九州市・環境都市の背景】

北九州市は人口約95万人の大きな都市である。同市は、1901年の官営八幡製鐵所の創業以来、重化学工業地帯として発展、中国大陸の鉄鉱石や筑豊炭田の豊富な石炭を利用した重化学工業は、日本の四大工業地帯の一つとして発展したが、結果、1965年に日本一の降下ばいじん量を記録、1969年には、日本で初めてのスモッグ警報が発令されるなど、著しい大気汚染に悩まされた。この公害を克服するために最初に声を上げたのが母親たちで「青空が欲しい」というスローガンを掲げ、自発的に大気汚染の状況を調査し、企業や行政に改善を求める運動を起こした。

北九州市は、市民の声を受け、迅速な対応を実施し、公害の状況を常時監視する公害監視センターの設置、公害について科学的に研究するための組織の整備などを行い、企業も、生産工程の改善、汚染物質の除去処理施設の設置、工場緑化などの対策を積極的に行った。これらの公害克服の技術と経験を生かし、環境国際協力や循環型社会づくりを進めるとともに「世界の環境首都」を目指したまちづくりを行っている。

#### 【調査目的】

以上のような環境先進都市における先端技術を集めたゴミ処理施設皇后崎工場を視察調査する。

#### 【皇后崎工場概要】

皇后崎工場は、3つの炉を有し、約40万人の市民を対象として、その排出するゴミ処理をおこなっている。総事業費345億円。ゴミ焼却時に発生する熱により蒸気タービン発電を行い、その発電量は17,200KW（約27,000世帯使用量相当）の能力を有する。発電された電気は売電され、その年間売上は7～8億円に達している。同市は、本工場の他2つの処理場を有し、市内で発生するゴミの処理能力は問題ない。

同工場では、分散型デジタル・コントロールというシステムを採用し、機器を中央制御室で一元的にコントロールし、設備の運転管理を効率よく行っている。またゴミプラットホーム内の空気やボイラからの排ガス対し有害物質の除去など最新技術を導入し、環境への思いやりに心掛けている。また同工場ではごみ処理・環境問題に市民の理解を深めてもらうため、工場見学を工夫しながら実施しており、小中学生などに対する学習効果は大きなものとのこと。

#### 【所感】

北九州市と沼田市では都市規模や財源に大きな差が在り、わが市で、皇后崎工場のようなゴミ処理施設を直ちに検討することにはならないであろうが、同市の環境問題（環境都市）に対する長年の取組と将来へ向けた取組姿勢については大いに学ぶべきものが存在する。とりわけ公害問題に取組んだ端緒が、子どもの健康を心配した母親たちの市民運動にあったこと、またその声に行政や企業が真摯に対応し、共に環境都市へと進んだこと。そしてそれらの成果の一つとして皇后崎工場も存在し、これからの「循環型社会」を指向・構築するに当たり、大いに学ぶべき点があるとの所感を得た。



工場外景



発電状況パネル

福岡県太宰府市 平成30年1月25日  
公共施設等総合管理計画・体育複合施設調査

#### 【太宰府市の概要等】

太宰府市は、人口約 71,700 人、平成 42 年頃までは微増との推計がなされており、その後減少に転ずる予想（最大値 74,200 人）、なお、年齢区分別では、年少人口（0～14 歳）は概ね横ばい、生産年齢人口（15～64 歳）は減少、老年人口は増加、とのこと。沼田市は総人口、年少人口も減少し、既に人口減少・少子高齢化の傾向が顕著であるが、太宰府市は出生数が横ばいないし微増である。この傾向の背景には、大都市福岡市のベッドタウンとしての地理的位置、また太宰府天満宮などの歴史的価値・優位、またその影響もあって市内には 4 年制大学が 4 校、専門学校が 2 校、高校が 5 校存在するという背景などがあり、若者の転入や出生数の現況が存在するものと思われる。そのような恵まれた背景にあるが、公共施設の老朽化や将来の少子高齢化社会へ向け公共施設等総合管理計画を策定された。同市のこの計画と昨年共用開始された総合体育館の視察をおこなった。

#### 【公共施設等総合管理計画】

計画期間は、平成 29 年から 29 年間であり、市の主要な 39 の公共建築系施設の 80% が既に築 30 年を経過している状況下、市の人口微増による最大値を加味した過不足のない施設整備が求められているとのこと。公共施設を現状のまま存続させた場合の更新・回収費は、年平均 22.8 億円必要となり、これを 22.0 億円に圧縮した場合、地方債権残高と基金変動額趣旨が「0」となることから、普通建設事業費を 4% 圧縮し、「年平均 22 億円以内」を目標とする方向で計画された。

具体的には、公共施設（建物系）を 9 の分類に分け、の中で主要な 39 施設を定め、施設ごとに維持管理の基本方針を定めている（公共施設再編計画）。その計画の基本は、

- ・それら 39 の施設以外は、新規整備は原則行わない。
- ・施設を建て替える場合は複合施設とする。
- ・個別施設を減量化するため、用途が重複するもの、稼働率の低い物は、統合・整理する。
- ・PPP・PFI など民間活力を利用し、施設コスト、運営コストの削減を図る。
- ・インフラ系公共施設について、新計画を策定し計画的な更新。ライフサイクルコストの削減。

などを目標として基本計画を立てている。

#### 【体育複合施設「とびうめアリーナ」】

平成 28 年 11 月供用開始、総事業費は約 34 億 8000 万円、3 階建て、延べ床面積は約 7300 平方メートル。1 階は柔道場・剣道場で、災害時に 500 人を収容。2 階がアリーナ（バスケットボール 2 面、バレーボール用で 2 面、バトミントン 8 面が取れる）3 階は固定観覧席 600 席、ランニングコース。移動式も含め観覧は最大約 1300 席。非常用トイレ施設などの設置されている。愛称は公募、太宰府天満宮の神木の飛梅（菅原道真と共に京都から飛んできた梅）にちなんで「とびうめアリーナ」とされた。

### 【所 感】

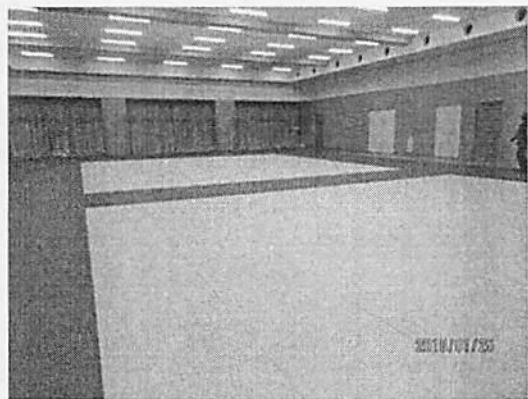
太宰府市の公共施設等総合管理計画や視察した体育複合施設は、同市の出生数の横ばい、人口微増、歴史的遺産などの背景、また公共建築物の市民人口1人当たりの延べ床面積1.9㎡（沼田市5.84㎡、全国類似都市3.77㎡）などの比較的恵まれた状況の下で計画・整備されたものであり、沼田市とは随分異なった状況にある。我市の公共施設等総合管理計画の基本的な目標が「今後40年間に公共施設保有量（延床面積）の40%を削減」ということと比べると、一言でいうなら「うらやましい」の感想を禁じ得ないが、我市の現在・今後の状況をしっかりと見据え、この課題に真剣に取り組まなければならないとの所感を得た。



災害時のトイレとなる



アリーナ内部（競技場）



アリーナ内部（柔道場）



太宰府天満宮

会 派 名		沼田同友会	議 員 名	中 村 浩 二
1	期 日	平成30年1月23日（火）～25日（木）		
2	調査事項	23日：行財政改革について 24日：ゴミ焼却工場での発電について 25日：公共施設等総合管理計画及び体育複合施設建設について		
3	所 感	調査後の考察（感想、政策提言、本市にどのように活かせるか など）を記入		
<p>調 査 日平成30年1月23日（火）</p> <p>場 所：大野城市</p> <p>時 間：午後1時58分～3時30分</p> <p>項 目：行財政改革について</p> <p>所 感：</p> <p>大野城市は人口約10万人の市で、平成29年度予算は351億円であり、自主財源が依存財源を上回り、財政力指数も0.79で、財調基金を含む積立金は157億8千万円と安定した市であります。今後の財政状況や地域経済の状況等を勘案し、簡素で効率的な行財政システムを構築し、自らの行財政運営について、透明性を高め公共サービスの質の向上に努めるため、積極的な行政改革に取り組んでおり先進的であると感じました。</p> <p>福岡市のベッドタウン的な市であり、2017年には住民の住みやすさランキング1位になるなど、人口も微増しておりますが、1年間の転出・転入が1万人前後で出入りも多いとのことであり本市との違いを感じました。</p> <p>このような市であります。市長の市政方針が新旧住民の融合と民間委託（NPO）への推進を掲げ、行政改革の推進を図ったことは市長の決断に感銘した次第であります。</p> <p>人口10万人で職員数が410人であり、嘱託職員等が120人とのことであり、単純に沼田市と比較しても、大きな差があり、改めて大野城市の取組に驚いた次第であります。</p> <p>大野城市が行政改革に取り組むために、先ず職員の意識改革からはじめ、職員研修も雑学を含めユーモア的に行ったり、職員を地域行事に参加させてスキルを身に付けさせて地域との連携をつくりあげたり、地元の区長が公民館長に就任するなどして、行政と地域が一体となっていることは自治体の見本であると考えます。</p> <p>大野城市の取組の特徴は大野城市公共サービスDOCK事業をコンサルタントへ委託し、大野城市独自の総合型行政評価システムを構築したものであります。</p> <p>また、第三者評価による診断体制として、公共サービス改革委員会を設置し、委員会構成員は職員以外の委員とし、外部からの第三者評価（チェック）機能を充実させたことが大きな特徴であると感じました。</p> <p>政策提言：</p> <p>行政改革は沼田市当局の職員負担が増加することと考えられますが、少子高齢化による人</p>				

口減少は避けられず、沼田市においても更なる行財政改革が必要でありますので、今後の議員活動としても、この大野城市の行政改革の取組を参考に、沼田市における更なる行財政改革の取組を提言していきたいと考えます。

調 査 日：平成30年1月24日（水）

場 所：北九州市 皇后崎工場

時 間：午後1時45分～3時30分

項 目：ゴミ焼却工場での発電について

所 感：

北九州市には、新門司工場、日明工場、皇后崎工場の3ヶ所の工場でゴミ処理を行っております。

この他に、日明粗大ゴミ資源化センター、北九州市プラスチック資源化センター、日明かんびん資源化センター、本城かんびん資源化センターなどがあり、北九州市のすべてのゴミ処理や資源化を行っております。

その内の皇后崎工場は北九州市の若松区、八幡東区、八幡西区の3地区が対象であり、北九州市の人口95万人のうち、3地区の40万人を対象とするゴミ処理工場であり規模が大きいことに驚きました。

皇后崎工場は、1日810tのゴミ処理が可能で発電出力は17,200kWであります。

焼却炉型式は連続焼却式ストーカ炉で発電設備は蒸気タービン発電設備であり、建設事業費は345億円であります。

この施設の特徴は、コンピューター制御によるシステムの自動化を図っており、濾過式集塵機「バグフィルタ」により、ダイオキシンなどの発生を抑え、ゴミの焼却により発生した熱を有効利用するため蒸気タービン発電機を設置し、電力として回収することで地球温暖化の原因となる二酸化炭素の排出を抑制している最新型の施設であります。

皇后崎工場は中央制御室で一元的にコントロールしており、作業の自動化・省力化を図っているのが大きな特徴であり、最先端のテクノロジーが活かされている施設であると感じました。

また、半乾式有害ガス除去システムを採用して塩化水素や硫王酸化物、水銀、ばいじんなどを除去するとともに、ダイオキシン類の生成を抑制、排ガスを原因とする公害の発生を防ぐなど、環境保全の対策にも配慮した施設であります。

特に、ごみ焼却により、発生した熱をボイラで無駄なく回収し蒸気タービン発電機で発電を行い、この電力で工場内の電力を消費するほか、皇后崎環境センターや西部浄化センターにも送り、余剰電力は電力会社へ売電しており、年間6億から7億円の収入を得ており、ごみを利用して収入を得る施設であり、これからの施設の先進的な処理場であると感じました。

また、ごみの衛生化、無害化のために焼却し、余熱の有効利用をしておりますが、やはり、

ごみは減らすこと、そしてリサイクルすることが必要であると再認識した次第であります、特にごみを焼却し、土にして、埋め立てて、一部は三菱マテリアルにセメントの材料として売却もしており、リサイクルとしても有効な取組と感じました。

政策提言：

沼田市では、関係するごみ処理場は老朽化しており、新たな処理方法を模索しているところではありますが、これからの処理場は市町村単位で検討するのではなく、利根沼田広域圏や群馬県の北毛地域など、地域で検討し、設置していくことが望ましいと考えますので、皇后崎工場を参考に議員として研究し提言していきたいと考えます。

調 査 日：平成30年1月25日（木）

場 所：太宰府市及びびうめアリーナ（総合体育館）

時 間：午前10：12～11：40

項 目：公共施設等総合管理計画及び体育複合施設建設について

所感（太宰府市公共施設等総合管理計画）：

明治22年に3村が合併し太宰府村となり、明治25年に太宰府町に、そして、太宰府町と水城村が合併し新太宰府町に、人口急増期を迎え、昭和57年に太宰府市が誕生しました。

平成17年には九州国立博物館が開館し、太宰府天満宮と合わせ、国内外から年間約890万人もの観光客が訪れる観光市であります。

人口は平成29年3月末で71,274人、市の面積は29.60平方キロと狭く人口密度の高い市であり、沼田市との違いを感じました。

福岡空港にも近接しており、太宰府天満宮などの関係から、大学4校、短期大学3校、専修学校1校、高校4校なども設置されており、代表的な文教都市であり、沼田市との違いを感じました。

市の将来展望による人口の推移は、平成42年まで微増が続いて最大値74,266人となり、その後減少しながら平成57年には現在と概ね同水準の72,778人となることが見込まれています。

このようなことから、早急に公共施設等の需要の変化や管理状況を把握し、中長期的な視点から計画的に維持管理を行うため太宰府市公共施設等総合管理計画を策定したものであります。

太宰府市公共施設等総合管理計画については、公共施設の老朽化に伴う維持管理に係る負担及び少子高齢化による社会情勢の変化等の課題対応のため策定されておりますが、人口は71,274人で微増していること、市の面積が狭小のところへ点在していることなどを考慮すると、沼田市の公共施設等総合管理計画とは若干の違いというか、とらえ方に相違があるように感じました。

政策提言（太宰府市公共施設等総合管理計画）：

太宰府市のような市であっても、早急に公共施設等の概要の変化や管理状況を把握し、中長期的な視点から計画的に維持管理を行うために策定されている総合管理計画でありますので、このようなことから、沼田市の公共施設等総合管理計画を考えますと、少子高齢化による人口は減少し、増加する見込みはなく、また、沼田市、白沢村、利根村の合併により公共施設数は多くなり、面積も広大でありますので、公共施設の老朽化に伴う維持管理に係る負担の増加及び少子高齢化による社会情勢の変化等の課題対応のため策定されました沼田市公共施設等総合管理計画の年次目標に速やかに取り組むよう提言していきたいと考えます。

所感（体育複合施設建設）：

体育複合施設建設につきましては、平成24年6月に「体育複合施設建設に関する基本的な考え方」を策定、平成25年9月「太宰府市体育複合施設建設基本計画」を策定、その後実施設計や建築工事の入札など行い、着手したものであります。

平成27年7月に市民説明会を行い、総建設費2,915,565千円にて、平成28年11月開館した施設であります。

市民説明会は建設中に平成27年7月18日と19日の2日間行われ計217人が参加されており、市民意見が反映された複合施設であると感じました。

また、施設はアリーナ、柔道場、剣道場、多目的ラウンジ、軽運動トレーニング室、研修室、会議室、シャワー室などが整備されており、快適な施設であると感じました。特に、災害など有事には避難施設となり、市民の安全確保にも利用される中心的複合施設であると感じました。

政策提言（体育複合施設建設）：

沼田市においても、テラス沼田、（仮称）利南運動広場、市民体育館（改修）、給食センター、武道場など、合併特例債充当事業による箱物が建設または計画されておりますが、今後の沼田市公共施設等総合管理計画との整合性や施設の利用頻度、維持管理などの市民負担を含めて、総合的に検討する必要があることを提言していくものであります。太宰府市の体育複合施設としての「とびうめアリーナ」は建設時に市民アンケートを実施しておりますが、概ね市民に受け入れられたようでありますので、本市においても、これからの施設は市民に愛される施設となるように提言していきたいと考えます。

会 派 名		沼田同友会	議 員 名	茂 木 清 七
1	期 日	平成30年1月23日（火）～25日（木）		
2	調査事項	23日：行財政改革について 24日：ゴミ焼却工場での発電について 25日：公共施設等総合管理計画及び体育複合施設建設について		
3	所 感	調査後の考察（感想、政策提言、本市にどのように活かせるか など）を記入		
<p><b>大野城市【行財政改革について】</b></p> <p>大野城市は、福岡市のベッドタウンとして、わずか26.89平方キロメートルの面積の中に、人口10万人が住んでいる町でした。沼田市は、その半分以上の人口にもかかわらず、市の職員が沼田市とほぼ同じ人数で、どのように運営しているのか興味を持ちましたが、面積が沼田市のほぼ15分の1でエリアが狭いということで納得できました。また、市役所の窓口業務は民間に委託しているところ、また、公共施設等は指定管理者制度を取り入れているところも人員削減につなげていると感じた。</p> <p>一番の関心は、市内の各団体の人・市の職員・コンサルタントを交えて委員会を構成し、各部会で話し合い、公共サービスを決めている点でした。これを、市に提案して実現に向けて検討していく、横山市長も言っていますが、市民が主役、まさに、市民の人たちが考えたことを形にしていく。このようなことが大事なと感じた視察でした。</p> <p><b>北九州市皇后崎工場【ごみ処理施設での発電について】</b></p> <p>北九州市には、全部で3カ所の焼却施設があるそうです。その中の一つである皇后崎工場は、1日に810トンのごみ処理が可能だそうです。人口で見ると、約40万人分の処理能力だそうです。沼田市も今後は、1市1町3カ村で考えなければならない、そんな時期にきているので、できれば1つの施設ですと故障した時などは焼却できなくなるので、2つくらいに分けて建設するとリスク分散ができるのかなと感じた。皇后崎工場のように焼却した熱で発電し、その施設の全ての電力を賄っている、また、余った電力は売っているということでした。</p> <p>沼田市だけでなく、広域圏で検討すべき問題ではと感じた。皇后崎工場では、焼却した灰は埋め立て地に持っていくそうですが、利根沼田の場合は埋め立て地がないので、そこが課題ではないかと感じた。ごみ問題に関しては、利根沼田だけでなく群馬県全体の問題でもあることだと思うので、今後は、県と広域圏で考えていかなければならないと感じた視察でした。</p> <p><b>太宰府市【公共施設等総合管理計画について】【体育複合施設について】</b></p> <p>太宰府市も大野城市と同じくらいの29.60平方キロメートルで沼田市の面積の15分の1で、人口は71,000人と沼田市と比べると非常にコンパクトな町だなと感じた。町の中には大学4校、短大2校、専門学校2校と学生が多く、若い人の多い町だと感じました。</p>				

太宰府市は学問の町のような感じで売っていますが、その様子が見えたようでした。また、太宰府市では、今現在「人口1人あたりの施設量」は、1.9平方メートル／人と非常に少なく、沼田市の5.4平方メートルから見ると相当少ないのが分かります。

太宰府市では、築30年以上経過した施設が全体の80%であり、老朽化した建物の対応として、公共施設再編計画なども視野に入れ、検討しているとのことでした。現在78施設あるものを、新たに整備が必要な施設を設定し、39施設に再編していく計画だそうです。沼田市も、5.4平方メートル／人ある公共施設をもっと見直し、かなりスリム化できるのではないかと感じた。今後の太宰府市の進め方等、注目していきたいと感じた。

体育複合施設については、プロの試合もできる設備があるということで期待をしていましたが、実際はサブコートがないためにプロの試合ができないそうです。しかしながら、施設を見学させていただいた時に感じたのは、サブコートをつくるだけのスペースは十分にあり、もったいないなと感じた。なぜ、建設するときに専門の方を入れて計画を作らなかったのかと思いました。

沼田市も今、いろいろな公共施設など、合併特例債を活用して事業が始まっていますが、無駄なものを作らないためにも、当局と議員と皆さんと一緒に考えていかなければならないと感じた。

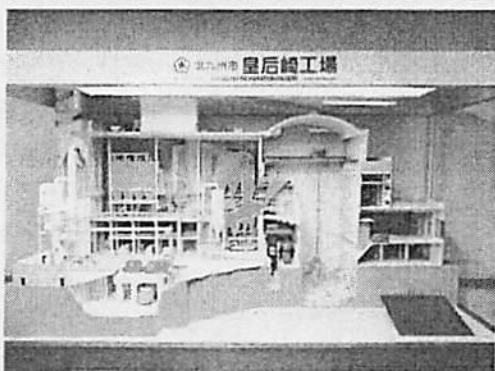
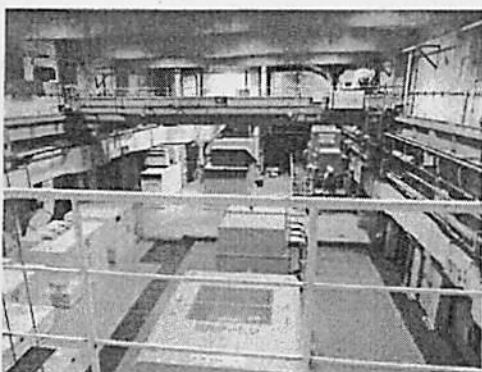
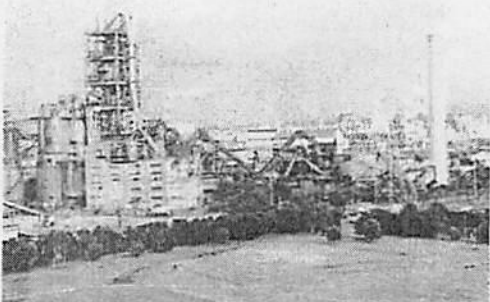
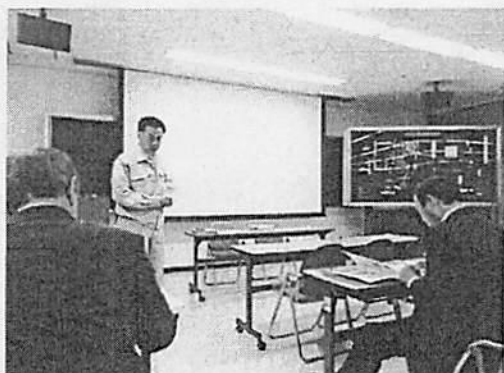
会派 名	沼田 同友会	議 員 名	桑原 敏彦
1	期日	平成 30 年 1 月 23 日（火）～1 月 25 日（木）	
2	調査 事項	1 月 23 日①大野城市、行財政改革について 1 月 24 日②北九州市、皇后崎ゴミ処理施設について 1 月 25 日③太宰府市、公共施設等総合管理計画及び体育総合施設建設について	
3	所感	調査後の考察（感想、政策提言、本市にどのように活かせるか など）を記入	

#### ①大野城市、行財政改革について



大野城市では、行政改革の一環として、継続的に実施している事務事業に対して、決算データを基に収支をまとめたシートを利用した事後評価である「フルコスト計算書診断」の制度設計に、市職員の研究会を中心に平成 12 年度より着手し、平成 13 年から 14 年度の段階的試行を経て、平成 15 年度より本格実施している。「フルコスト計算書診断」は、市民および民間コンサルタントなどによる第三者評価方式で行い、質の高い公共サービスの提供と、効率的な行政運営を推進するツールとして、定着している。平成 19 年度からは、更に充実した行政評価へステップアップするため、「フルコスト計算書診断」に加え、「民間活用のあり方診断」「業務・システム最適化診断」「初期診断」を導入し、平成 23 年度からは「人材の育成と活用診断」を加え、多角的に行政評価（診断）を行うシステム「公共サービス DOCK 事業」（D＝誰でも、O＝オープンに、C＝チェックできる、K＝環境づくり）を構築し、質の高い行政サービスの提供および効率的な行政経営を目指している。沼田市においても厳しい財政状況の中、行財政改革を行っていくべきと感じました。

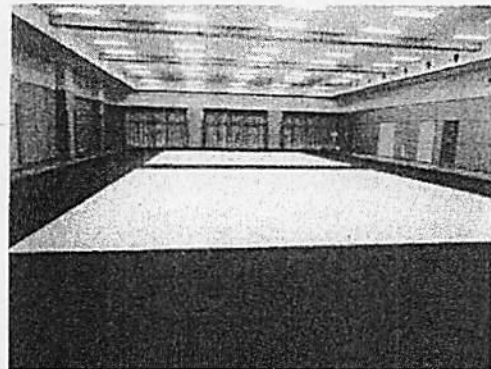
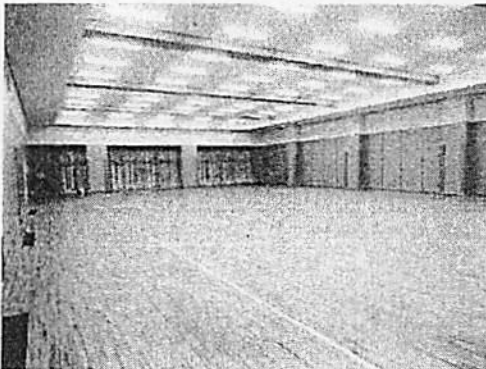
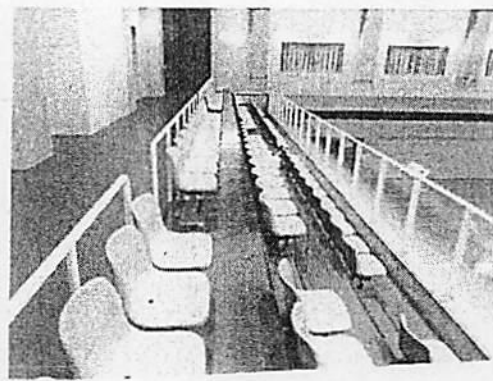
②北九州市、皇后崎ゴミ処理施設について



皇后崎工場は、集められたゴミを焼却処理しており、1日810tのゴミが焼却可能である。ゴミ焼却時に発生する熱エネルギーを有効利用し、最大17200kwの発電を行う事ができます。

沼田市においても、近々のうちにゴミ焼却施設が必要であり、利根沼田を含む広域的な計画で進めていくべきであると感じました。

### ③太宰府市、公共施設等総合管理計画及び体育総合施設建設について



#### (アリーナについて)

施設の2階に位置するメインアリーナの広さは1,613㎡あり、これはバスケットボール競技用2面、バレーボール競技用2面（一般用3面）、バドミントン競技用8面を確保できる広さです。市内体育館のアリーナと比較して約1.7倍から4.0倍の広さであり、市民レベルのスポーツ大会など中規模の大会が実施可能な規模です。また、天井はバレーボールやバドミントンのルールの公式競技にも支障がない高さを確保しています。

#### (避難施設)

避難施設の規模は、受入人員を500人、避難期間を2週間としています。その際の避難者居住スペースとして1,500㎡（1人当たり3㎡）必要となるため、災害時には1階の柔・剣道場、卓球スペース兼多目的ラウンジ、軽運動室等が一時避難場所となります。また、2階のメインアリーナも、大人数の一時避難場所とし機能します。沼田市においてこれから進める体育館工事の参考になりました。

薦めのごみ処理が可能です。を推進するツールとして、定着しています。

会 派 名		沼田同友会	議 員 名	永 井 敏 博
1	期 日	平成30年1月23日（火）～25日（木）		
2	調査事項	23日：行財政改革について 24日：ゴミ焼却工場での発電について 25日：公共施設等総合管理計画及び体育複合施設建設について		
3	所 感	調査後の考察（感想、政策提言、本市にどのように活かせるか など）を記入		

1月23日（福岡県大野城市）

所感：DOCK事業（Dだれでも、Oオープンに、Cチェックできる、K環境づくり）市役所の仕事を見える化し、職員、市民、専門家など多用な人たちが様々な視点から診断し、事務事業をフルコスト計算診断により小事業の共通化ができ、事業費のコストダウンができたこと。ワンストップ窓口、フロントオフィスとバックオフィスを分け、嘱託職員、民間委託、業務委託を、アウトソーシングを推進することにより人口当たりの職員数がトップクラスの少なさで、市民満足度の高い行政サービスの提供と業務効率化を実現。大野城市独自の総合型行政評価システムの先進的な事例を見ることができた。沼田市の行政改革に活かせるようにしたい。

1月24日（福岡県北九州市）

所感：北九州市には3つのごみ処理施設工場があり、今回は、皇后崎工場を視察させていただきました。皇后崎工場は、1日のごみ処理能力が810トン、コンピュータ制御システムの自動化で運転管理、作業の自動化、省力化を図っている。ごみ焼却によって発生する熱は、ボイラーで回収されて蒸気タービンで発電し、電力は工場内で消費するほか売電をしています。発電量は17,200kwで、平成27年は約19億円の売電収入があったそうです。沼田市でもごみ処理施設は、経年劣化による老朽化等で新施設の建設を検討していかなければならないと思いますが、処理経費の節減になる、皇后崎工場の電力の売電は推進していきたいと思いました。

1月25日（福岡県太宰府市）

所感：太宰府市は、平成28年11月にオープンした総合体育館とびうめアリーナを館内視察させていただきました。アリーナは、スポーツ大会講演会など様々なイベントに対応できる施設で、固定観覧席、手動式の移動観覧席、あわせて1,300席の確保ができるそうです。また、ステージが整備されていました。競技は、バスケット、バレーボール、バドミントン、柔道、剣道、卓球、バウンドテニス等の競技を行うことができ、多目的ラウンジの設置もされていました。固定観覧席のまわりをランニングコース（1周180メートル）に整備して有料50円／1時間で利用できるところ、有料ですが温水シャワーの完備など最新の設備がありました。施設の案内看板等は多言語に対応しており、すべてのトイレは障害者に対応でき、シューズのまま履ける大きなサンダルが通常のサンダルとともに配置されていま

した。また、災害時には避難場所として使用できるよう施設ごとに対応できるようになっていること、倉庫に非常食や紙おむつ、女性の生理用品、毛布などが備蓄されていること。入口のところにあるベンチの下に排水が流れていて、簡易トイレにできること。太陽光発電を備えていることなどです。沼田市も体育館の改修工事が行われますが、参考にして活用できればと思います。

会 派 名		沼田同友会	議 員 名	林 清史
1	期 日	平成30年1月23日（火）～25日（木）		
2	調査事項	①行財政改革について ②ゴミ焼却工場での発電について ③公共施設等総合管理計画及び体育複合施設建設について		
3	所 感	調査後の考察（感想、政策提言、本市にどのように活かせるか など）を記入		

①1月23日（福岡県大野城市）

所感：人口10万人に対し、職員410人（その他嘱託職員約120名）で様々な多様化する市民ニーズに対応している。福岡市のベッドタウンとして今後数年間は毎年500人ほどの人口増を見込んでいるが新旧住民のコミュニティが課題のようである。人口に対しての職員数を減らす行政改革については、職員主導の公共サービス DOCK 事業により、民間経営理念の成果主義の導入やスクラップ＆ビルド方式により、公共サービスの徹底的な費用対効果の向上を図っている結果との事である。事業診断については、民間人を含む第三者評価を採用しており、より効率的な診断の下フルコスト計算等行い対応している。本市においても各事業の事務事業評価について第三者機関を設けることも必要であると考え。しかし、大野城市の現状は職員の残業も増大しており、職員数も410人が最少のピークであることから、本市においてはまず第三者評価を採用しながら、職員の意識改革を促し、本市独自の行政改革することが必要であると感じた。

②1月24日（福岡県北九州市：皇后崎工場）

所感：約20年前の建設当時よりタービン発電機により発電を行っており、ゴミの処理は連続焼却式ストーカ炉で1日810tの処理能力を有し、17,200kwの発電が可能であるとの事である。当初はスーパーごみ発電設備として、蒸気タービン・都市ガスタービン発電機を併用していたが、都市ガスの高騰により現在は蒸気タービン発電のみであり、発電機も3炉から1炉の焼却でも発電できるものに変更されている。維持管理費も年間2億円ほどかかっているが、売電等で年間7億円の収入があるとのこと。本市もゴミ焼却の清掃工場の延命化を図っており、北毛地区か利根沼田地区で新規に清掃工場の建設が予想される中、高効率な発電設備を有したものにすると必要があると強く感じた。プラス余剰熱を利用した事業展開が可能なものにすれば、新たな産業の発掘にも繋がると考える。今からしっかりと計画をしていく必要性を感じた。

③1月25日（福岡県太宰府市）

所感：スポーツ振興・生涯健康づくりの推進・防災非難に資する拠点施設として、約35億円をかけて建設され平成28年供用を開始した総合体育館である。太宰府市自体、福岡市のベッドタウンで平成42年まで人口増を見込んでいるようである。建物外には防災トイレや、建物内には防災備蓄倉庫も整備されている。バスケット B3 リーグの試合も開催されたとの事

である。維持管理の基本方針では、市内の他の体育館との利用方法の検討や広域連携による施設利用の検討など課題もあるようである。本市も仮称利南運動広場整備・市民体育館改修や、武道館の建設等の事業があるが、防災対策を含む多目的で複合的な、本市の公共施設等管理計画に沿ったものにするべきであると感じた。

# 日程表 沼田同友会視察研修

日付	都市名等	時間	交通機関	スケジュール	食事	備考
1月23日 (火)	上毛高原	6:00	各自	集合出発後、羽田空港へ		
		6:21	Maxたにがわ400号	上毛高原-東京		
	東京	7:36				
		7:50	のぞみ13号	東京-博多	(朝食/昼食)	
	博多	12:54		各自車内にて朝食/昼食		
		13:00	専用車	集合出発後、大野城市役所へ		
	大野城市	14:00		大野城市役所視察		行政改革について視察
	福岡市	16:30	専用車	ベッセルイン博多中洲ホテルチェックイン	(夕食)	☎092-271-4055 ☎092-283-7788
		18:00		中洲 鷹勝 【ベッセルイン博多中洲泊】		
1月24日 (水)	北九州市	9:00	専用車	ホテルにて朝食	朝食	
		10:15		門司港へ		
		13:15	専用車	門司港見学と昼食	(昼食)	
		14:00		皇后崎へ		
	福岡市	17:00	専用車	北九州市皇后崎工場視察		ゴミ焼却工場での発電について ☎092-271-4055
		18:00		ベッセルイン博多中洲ホテル着 各自博多にて夕食 【ベッセルイン博多中洲泊】	(夕食)	
1月25日 (木)	太宰府市	9:20	専用車	ホテルにて朝食	朝食	
		10:00		太宰府市役所へ		
		11:30	専用車	太宰府市(とびうめアリーナ)視察		公共施設等総合管理計画について 体育複合施設建設について ※市役所内で公共施設等総合管理計画の説明を受けた後、とびうめアリーナを見学
	福岡(福岡空港)	12:15		福岡空港へ		
	①先発	14:00	JAL318便	福岡空港内で各自昼食	(昼食)	
	②後発	14:20	ANA256便	空路羽田空港へ		15:30羽田空港着
	東京(羽田空港着)	16:00	専用車	集合出発後、沼田市役所へ	(夕食)	15:55 "
		20:00		上毛高原到着後、解散です ※お疲れ様でした※		

※食事の( )内は各自でお願いします。またその他での清算もありますので宜しくお願い致します。

読売旅行 前橋営業所 担当: 〇〇〇〇 〇〇27-243-5201